

◆第一回 安井息軒ふるさとウォーク開催

3月10日(土)、春の陽気が降り注ぐ中、息軒ふるさとウォークを開催しました。今回は第1回目ということもあり、旧宅のある中野地区を中心に散策しました。今回の探訪先は誕生から32歳にまで遊び、親しみ、時を過ごした息軒ゆかりの地ばかりです。

24名の参加者は、春の花咲く中野路を楽しく探訪し、学習し、幼少時から青年時代の安井息軒に想いを馳せていました。今後も2回、3回と回を重ねていきます。是非ともご参加ください。



◆梅香る「香梅庵」で美味しいお茶をどうぞ! 今年も呈茶を実施

今年も茶室「香梅庵」をご利用いただいている茶道の先生方のご協力のもと、呈茶を実施し、たくさんのお客様に楽しんでいただきました。



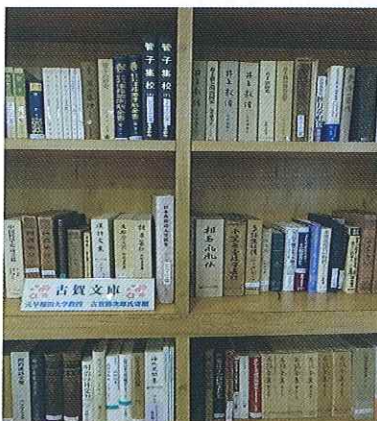
香梅庵前の紅梅

◆安井息軒関連図書多数寄贈

～ 元早稲田大学教授 古賀勝次郎氏より ～

早稲田大学の古賀勝次郎教授は近年における安井息軒研究に関して最も精力的に、そして組織的に研究をリードしていただいている先生のお一人です。例年安井息軒の命日である9月23日には記念講演会を開催していますが、同教授には昨年度の記念講演会で「安井息軒先生に学ぶ」というタイトルで講演をお願いし、知の巨人として更には法治国家への先導者としての息軒の果たした役割を熱く語っていただきました。

その古賀先生が平成29年度末をもってめでたく退官され、研究図書を顕彰会に寄贈していただきました。「古賀文庫」として有難く活用させていただきます。



◆息軒噺第7話 お佐代さんの噺

森鷗外の『安井夫人』という小説をご存知でしょうか。幕末の碩学鴻儒として名声をはせた安井息軒の妻佐代を主人公にした歴史小説です。彼女に関する史料が乏しいにもかかわらず、鷗外が敢えて息軒ではなく佐代を小説の主人公にもってきた由縁は何だったのでしょうか。

仲平が不男であることを理由に縁談を断った姉とは正反対に、自ら仲平の妻になることを望んだ時、佐代は僅か15歳の少女でした。「岡の小町」と呼ばれ、近在の若者たちの羨望の的であった少女は、その時からしっかりと自ら選んだ人生を歩み始めるのです。

鷗外が生きた当時、女性の権利を堂々と主張する平塚らいてうや与謝野晶子が出てきます。鷗外は佐代の中にもそんな自己確立のできた女性を感じとり、しかしながら、生き方はひたすら夫を支え、労苦を厭わずという全く対照的ともいえるものです。佐代は自分の人生を後悔することはなかったと鷗外は捉えました。

生涯を通して控えめでありながら凛とした生き方が、鷗外の琴線に触れたというべきでしょうか。幕府の御儒者という夫の晴れ姿を見ることもなく鬼籍に入った佐代の生涯とは何だったのかを鷗外は自分にも問いかけながら、有り余る愛情と想像力で佐代を描いたのでしょう。(文責:長野)



「安井夫人」が初めて掲載された大正3年の雑誌『太陽』